

町制施行100周年企画特集

第4号

わが町の鉄道史

近鉄吉野線の前身である吉野軽便鉄道株式会社が吉野口ー吉野駅(現在の六田駅)に開業したのが大正元年(1912年)のこと、今年で109年を迎えます。

普段何気なく利用している鉄道が今日の形になるまでには、先人の大きな功績がありました。

明治23年(1890年)、奈良一王寺間に県内初の鉄道が開通したのを皮切りに、県北部ではわずか10年のうちに鉄道開発が進み、一躍交通が便利になりました。しかし吉野川流域以南では開発が遅れており、明治29年(1896年)以降、ようやく吉野への鉄道の計画が進みました。

このとき吉野鉄道の事業の中心にあったのは、未開発地域の鉄道開発に目を留めた新野区出身の森栄蔵という人物でした。「地方開発は産業の育成にあり、交通機関の発達にあり」が口ぐせだった森氏は、同じく本事業の中心にいた阪本仙次らとともに、明治44年(1911年)、吉野軽便鉄道株式会社を設立しました。そして、下流に下市口駅、終点北六田に吉野駅の2駅を設置しました。

鉄道が敷かれてから、木材や梨などの出荷物の搬出や、吉野山への観光客が急増し、春の桜の季節には観光客で賑わいを見せるようになりました。こうして鉄道の整備は、



生活の向上とまちの発展に大きく関係してきました。

その後、大正2年(1913年)に「吉野鉄道」に商号を変更し、大正12年(1923年)には吉野口ー橿原神宮前間が電化、さらに六田から上市を経て現吉野駅まで延長・電化したことにより利用者は一層増加しました。昭和4年(1929年)には吉野・大阪阿部野橋間で大阪鉄道(後に関西急行鉄道、近畿日本鉄道へ改組)と直通運転を開始し、同年、大阪電気軌道(現在の近畿日本鉄道の前身)に合併され、今日に至っています。



大淀町の鉄道発展の中心人物であった森 栄蔵氏

古写真に見る町の鉄道



▲明治45年(1912年)・薬水駅のめがね橋建設工事の様子

レンガ積みの歴史を感じさせるめがね橋は、平成25年(2013年)に土木学会選奨土木遺産に認定されました。



▲大正11年(1922年)ごろ・吉野駅(現六田駅)付近の様子

旧吉野鉄道(現近鉄吉野線)は、大正元年(1912年)に吉野駅(現六田駅)と国鉄吉野口駅の間に開通しました。



▲昭和40年代・下市口駅にて利用者が賑わう様子

近鉄吉野線各駅(福神駅を除く)のプラットフォームの石積みは、建設当初のものと考えられます。

大淀あらかしテレビでは、町制施行100周年記念番組を放送予定していますので、ぜひご覧ください。なお、あらかしテレビの視聴には、こまどりケーブルへの加入が必要です。 問 町役場 総務課 ☎ 0747-52-5501